

令和6年度「全国学力・学習状況調査」(令和6年4月実施)の結果について

1 調査目的(要旨)

- 義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査事項 (1) 児童・生徒：教科調査〔国語、算数・数学〕、質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
(2) 学 校：質問紙調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

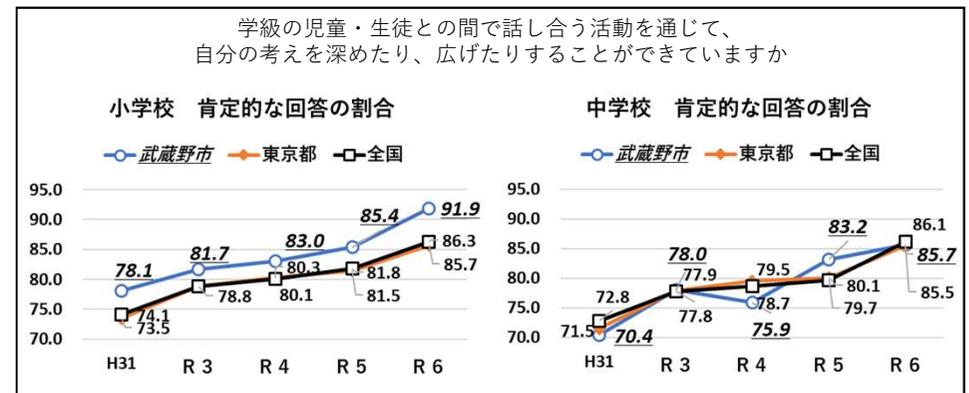
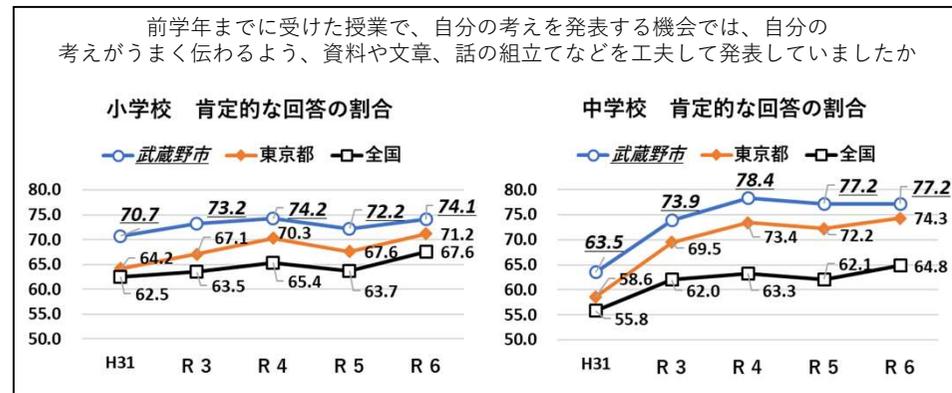
4 教科調査の結果と分析

(1) 全体の傾向(平成31年度からの推移)【平均正答率=%】 ※(都との差)は市教育委員会で追記した数値(令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し中止)

		小学校 第6学年					中学校 第3学年				
		H31	R3	R4	R5	R6	H31	R3	R4	R5	R6
国語	武蔵野市	75 (+10)	75 (+7)	73 (+4)	76 (+7)	78 (+8)	80 (+6)	73 (+6)	76 (+6)	80 (+8)	70 (+9)
	東京都	65	68	69	69	70	74	67	70	72	61
	全国(公立)	63.8	64.7	65.6	67.2	67.7	72.8	64.6	69.0	69.8	58.1
算数	武蔵野市	78 (+8)	81 (+7)	73 (+6)	75 (+8)	78 (+10)	70 (+8)	68 (+8)	65 (+11)	66 (+12)	68 (+11)
	東京都	70	74	67	67	68	62	60	54	54	57
	全国(公立)	66.6	70.2	63.2	62.5	63.4	59.8	57.2	51.4	51	52.5

(2) 各種の結果と分析等

- ①-1 全教科の全問題で全国、東京都の平均正答率を超えた。
- ①-2 本市の第1四分位(データを小さい順に並べたとき、はじめから数えて25%の位置にある数)と全国の平均正答率を比べると、昨年は、中学校国語のみ全国の平均正答率をわずかに超えていたが、今年度は小学校国語10.0問(全国8.0問)、算数11.0問(全国7.0問)、中学校国語9.0問(全国6.0問)、数学8.0問(全国8.4問)と、3教科で全国平均を2~4問超えた。
- ①-3 これらのことから、知識・技能の習得等の全体的な底上げは昨年度以上に図られており、引き続き、指導の個別化(その子に応じた指導)や学習の個性化(一人一人の興味・関心に応じた学習)といった「個別最適な学び」の着実な推進が必要である。
- ②-1 観点別に着目し、「思考・判断・表現」の問題の平均正答率を全国と比較すると、小学校国語10.0、算数16.9、中学校は国語12.5、数学18.9ほど高い結果となった。
- ②-2 記述式問題に着目し、全国平均正答率と比較すると、小学校国語7.4、算数15.0、中学校は国語17.6、数学18.9ほど高い結果となった。そのうち無回答率が、最も高い問題で小学校国語7.7(全国12.6)、算数6.1(全国12.6)、中学校国語6.3(全国15.0)、数学13.6(全国33.6)となった。
- ②-3 「思考・判断・表現」の問題や記述式問題に関連する児童・生徒質問紙の肯定的回答は以下のとおり年々高まっている。これらのことから、各校の思考を深める問の工夫や、説明・話し合い等の言語活動の充実が成果として表れている。



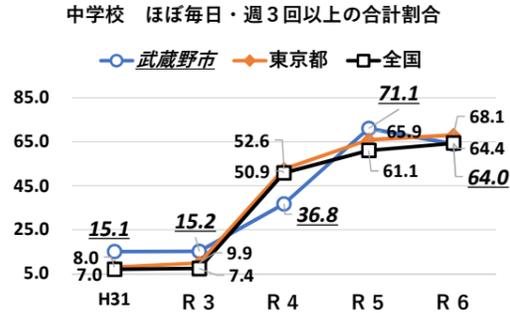
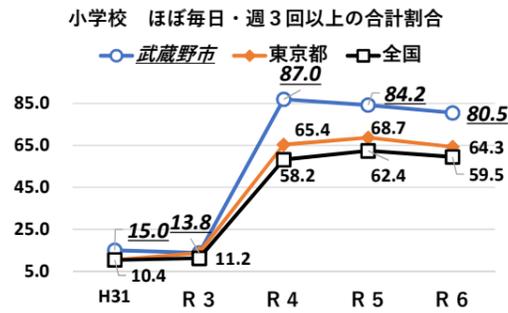
(3) 無回答率が高かった問題の例(概要)

- ①【小学校国語】物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く
- ②【算数】折れ線グラフから、開花日の月について3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く
- ③【中学校国語】表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する
- ④【数学】車型ロボットについて「速さが段階1から5まで段々速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向がある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する

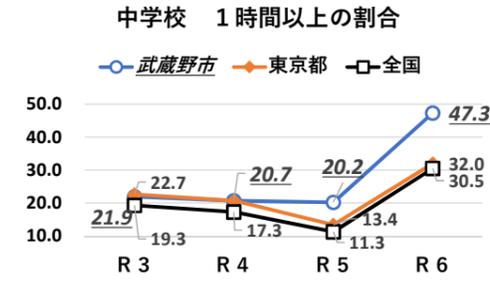
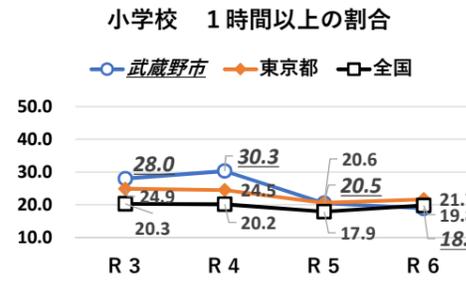
5 児童・生徒質問紙結果の経年変化を基にした第三期学校教育計画の主要な取組の効果検証【回答＝％】

(1) 情報活用能力の育成

①前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



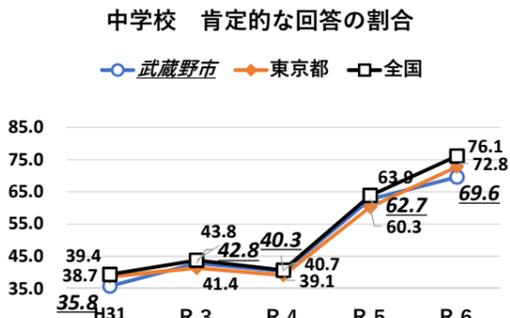
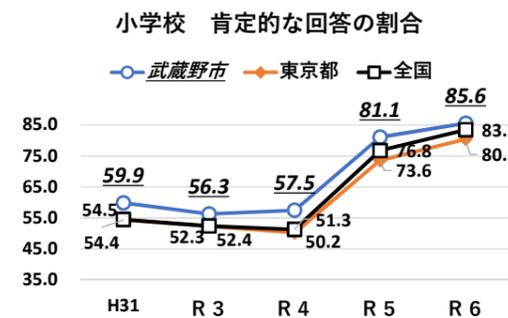
②学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）



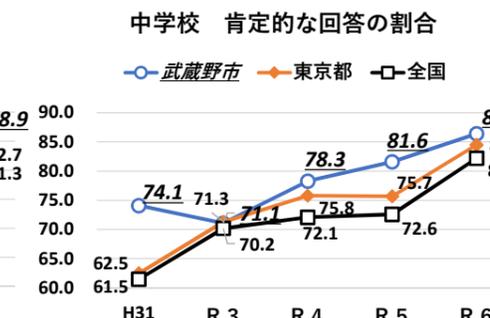
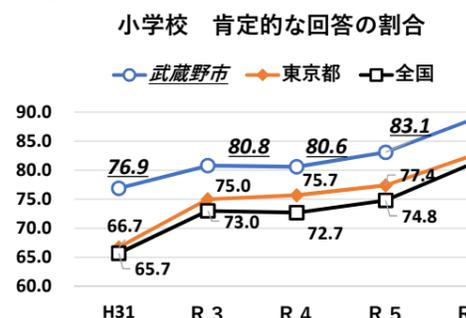
○学習者用PC等の活用について、特に小学校は「ほぼ毎日」が45.2％（全国25.3％）と、児童の実感として、日常的な活用が定着してきた。
○中学校は「ほぼ毎日」が20.7％（全国31％）と、全国より低い。経年変化で見ると、令和4年は9.5％（全国21.6％）だったため、活用自体は以前より進んでいるものの、十分とは言えない。
○特に中学校は授業時間以外に勉強でタブレット等を扱う時間が大幅に増えている。（47.3％のうち、2時間以上16.2％、3時間以上13.4％）タブレット等を活用した学びが生徒にとって日常化しており、デジタル・シティズンシップの観点から、日々の授業や学校生活で抑制ではなく、効果的な活用を推進する必要がある。

(2) 市民性の育成

①地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



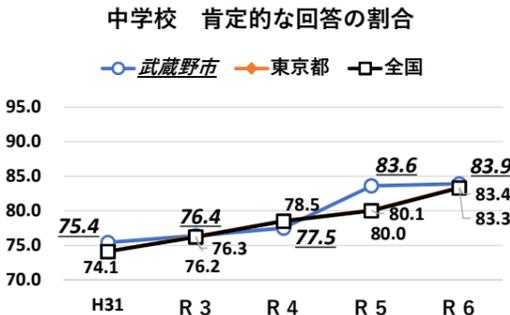
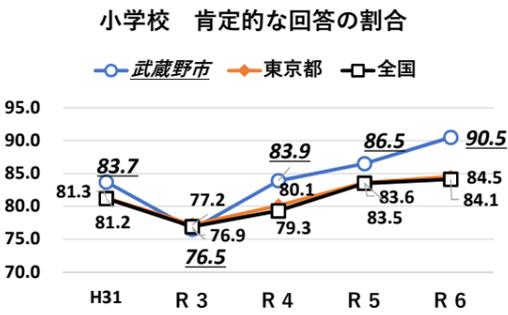
②総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



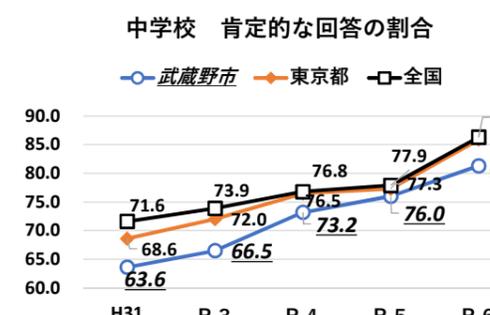
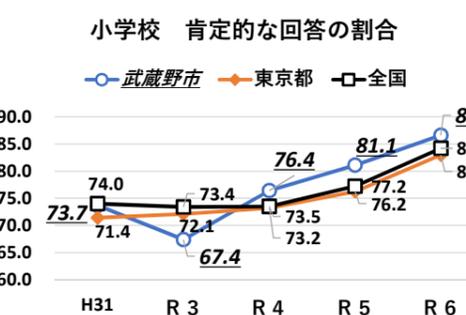
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的な回答について、大幅に上昇した昨年よりさらに高い数値になった。
○総合的な学習の時間について課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現といった学習過程を意識している児童・生徒も昨年よりさらに高い数値になった。特に小学校は「当てはまる」と答えた割合が50.9％（全国36.5％）と、半分を超えた。
○ニュース等で社会情勢を児童・生徒が知る中で、武蔵野市民科や総合的な学習の時間を中心に地域や社会の課題を扱うことで、社会への参画意識が育まれてきていると考えられる。
○今後、より身近な場所から課題意識をもつことができるよう、地域コーディネーターをはじめとした地域連携の工夫を一層進める。

(3) 多様な人々が共に生きる社会の担い手としての資質・能力の育成

①自分には、よいところがあると思いますか



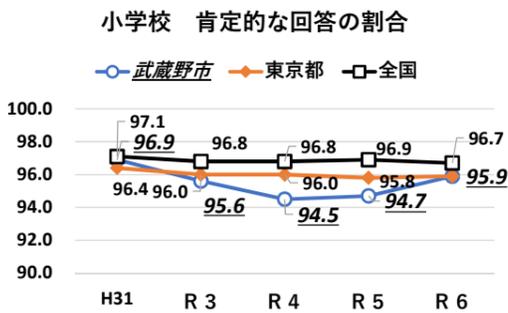
②あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（中学校は学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



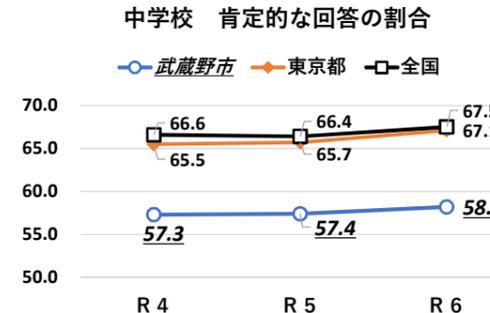
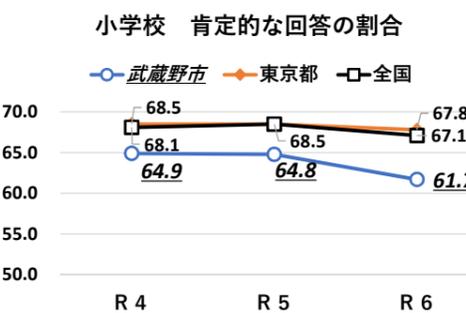
○「先生はよいところを認めてくれている」の肯定的な回答も、小学校は93.6％（令和5年90.7％）、中学校は88.1％（令和5年83％）に至っており、教員が児童・生徒の取組について、様々な場面で称賛や価値付けを行っている効果が着実に表れている。
○この他に「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定的な回答は小学校81.9％、中学校74.4％となった。
○「多様性を生かした教育活動」として、様々な考えを受け止め、納得解や最適解を見出す取組の具体として、学級会や学級活動が充実してきたことが数値の上昇から分かる。
○今後、学校行事を子ども主体で計画する、学校の実情や社会の変化を踏まえて生活のきまりを見直すなど、児童・生徒による自発的・自治的な活動を一層進める。

(4) 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実について

①いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



②困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える児童・生徒の割合は、昨年度より僅かではあるが増加した。なお、「当てはまる」と回答した割合は小学校75.6％（全国79.5％）、中学校71.1％（全国77.5％）であった。
○引き続き、いじめは相手の権利を侵害する行為であり、いかなる理由があっても許されるものではなく、犯罪行為につながる可能性もあるということを毅然と指導する必要がある。
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答の割合が例年全国や東京都より低い。（3）の「先生はよいところを認めてくれている」の割合は高いことから慎重な分析が必要だが、児童・生徒が相談しやすい学級・学校の風土づくりが大切となってくる。